



**hina no marebito の まればと**

昌彦だ。終戦の年に生まれ、中国・天津から引き揚げる船中で急性肺炎に罹り高熱がひかず帰国。5歳の時、倉敷中央病院で「この子の右目は全く見えていない。左目は僅かだけ」と診断される。小学校に入学すると壮絶ないじめを受けた。給食のミルクにゴミを入れられ文房具を隠されたりしたので教室中に消防器液を振り撒き、校外で石を投げられると投げた子の家に砂を撒き問題を全体化した。

小2で失明、完

全に光を失い岡山盲学校へ転校。中学部1年の学年末でオール5を取る。担任は褒め称えた後、苦言を呈する。「竹内君の

「途上国に住む盲目の子供達に光を届けたい」と言うのはヒカリカナタ基金理事長竹内昌彦だ。終戦の年に生まれ、中国・天津から引き揚げる船中で急性肺炎に罹り高熱がひかず帰国。5歳の時、倉敷中央病院で「この子の右目は全く見えていない。左目は僅かだけ」と診断される。小学校に入学すると壮絶ないじめを受けた。給食のミルクにゴミを入れられ文房具を隠されたりしたので教室中に消防器液を振り撒き、校外で石を投げられると投げた子の家に砂を撒き問題を全体化した。

**ヒカリカナタ基金理事長  
元岡山県立盲学校教頭**

**竹内昌彦氏 (74)**



## アジアの途上国への光

5は一つも本物ではない。君は自分のことしか考えていない。困っている友達に親切に教えてあげた時、君の5は本物になるのよ。

か考えていない。困っている友達に親切に教えてあげた時、君の5は本物になるのよ。教員だった小学校校長からの依頼で始まった

その後の竹内は卓球でパラリンピック金メダル、東京教育大学(現・筑波大学)入学、卒業後に母校の盲学校へ就職、「文通相手との結婚と慶事が続いた。が、長男が早逝。「僕は我が儘な人間で自分の幸せだけを求めてきた。だから頑張って教師になつた。幸せにな

りたいと思って突き進んだ。それも長男が亡くなつた時、消え失せた。その時思った。自分の幸せだけを求めたらあつという間に消える。人に喜ばれ、人に幸せをあげ、人に役立つ方がよほど幸せ感が大きい。長男が命を捨てて僕の根性を叩き直してくれた」。

竹内は盲学校高等部職業教育の教員時代に、「小学部で話をほしい」「中学部に行つてほしい」「点字を教えてほしい」という声に真摯に応えていたら全盲ながら舍監長

なる。アジアに光が広がる。  
(文中敬称略)

や教頭という重責を担うことになる。盲学校の講師は、盲学校の校長から「今まで目に見えない人間に話をしてくれと言つてきたことがあるか? 縁談と一緒で話があるうちが花。断つたらそのうちどこからも依頼がないから見えたもの」の収益を注ぎ込み、「ヒカリカナタ基金」を創設。モンゴルとキルギスへ盲学校を寄贈し、途上国の目が見えない子の目を手術で治す活動を展開、179人を助けてきた。「今年はNPO法人ヒカリカナタに『認定』をつけ一段階上の法人にしたい。大勢の人達から寄付を集められた子供の目だけではなく大人やお年寄りの白内障も治せ